

学校目標	『チーム文花中としての教育を実践し、文武両道の精神のもと、社会に貢献できる生徒、生徒の自主性を伸ばす学校』を目指す。
目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・「分かる」「楽しい」「できる」「定着する」が実感でき、自主的な学習意欲を育む学校 ・ I C T 機器や一人一台のタブレット端末を効果的に活用した ICT 教育を推進する学校 ・ 人権を尊重し、夜間学級との交流等、異文化理解を積極的に推進する学校 ・ チーム文花中として学校・家庭・地域が一つになって共に歩む学校
目指す生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権を尊重し、思いやりをもって互いに協力し合い、自他を大切にする生徒 ・ 毎日の授業や家庭学習を大切にし、自ら考え、進んで学びに向かう生徒 ・ 規範意識を身に付け、責任を果たし、国際社会の一員として、社会に貢献できる生徒 ・ 文武両道の精神をもち、心身共に健康で何事にも粘り強く取り組む生徒
目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒に対する教育的愛情と、教職に対する情熱と使命感をもっている教師 ・ 豊かな感性を持ち、明朗かつ健康で、人間的魅力にあふれている教師 ・ 高い「授業力」をもち、生徒に確かな学力を身に付けることができる教師 ・ 社会的良識と自ら学ぶ意欲をもち、組織人としての責任感、協調性を有する教師

項目	取組目標	学校評価	主な成果・改善策	学校関係者評価										
				取組の評価	改善策の評価									
各教科指導等	○確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施する。		①今年度の区学力調査では、国、数、英で区平均を上回った。社、理は平均を上回っていないものの、改善が見られた。また、個別最適化に関する研修を 4 回、授業見学期間を 2 回設けた。	A	A									
	①学力向上兼研究推進委員会を中心に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化をテーマに研究を行い、組織として効果的な授業や取組を行う。	A	①生徒アンケートから、授業者 18 名のうち、15 名の教員の授業において、90%以上の生徒が「授業が分かりやすい」と答えていた。											
	②一人一台のタブレットや ICT 機器を活用した授業を積極的に行い、生徒の興味・関心や、理解度を高め、授業力向上に繋げる。	B	②生徒アンケートから、7 教科の授業において、I C T を頻繁に活用している評価が得られた。											
	③国・数・英の基礎学力コンテストを実施し、基礎・基本の定着を図り、自信を持たせる。	A	②④学習アプリ (Qubena) を 5 教科全てで採用し、実践した結果、以下の意見が得られた。											
	④端末ドリルや学習支援アプリ (Qubena) を活用し、毎日の家庭学習を通して、学習習慣の定着を図る。	B	<table border="1"> <thead> <tr> <th>どちらが良いか</th> <th>教員</th> <th>生徒</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Qubena</td> <td>4</td> <td>5 2</td> </tr> <tr> <td>問題集</td> <td>4</td> <td>9 4</td> </tr> <tr> <td>どちらでも良い</td> <td>3</td> <td>7 7</td> </tr> </tbody> </table>			どちらが良いか	教員	生徒	Qubena	4	5 2	問題集	4	9 4
どちらが良いか	教員	生徒												
Qubena	4	5 2												
問題集	4	9 4												
どちらでも良い	3	7 7												
⑤ふり返り学習期間において、学力向上委員会を中心に計画的に行い学力の定着に繋げる。	B	②④学習アプリ (Qubena) を 5 教科全てで採用し、実践した結果、以下の意見が得られた。 ③漢字コンテストでは、約 93%の生徒が、数学コンテストでは、約 84%が合格した。(80 点以上が合格) ⑤区から配信されているデータベースを活用し、来年度は学力調査前だけでなく、定期的に活用できる環境を整え、学習の個性化に対応させていく。												

様式 4

<p>⑥英検、数検、漢検の各種検定を奨励する。</p>	<p>A</p>	<p>⑥12月までに、英語検定を2回(95人中、74人)、漢字検定を2回(65人中37人合格)、数学検定を2回実施(57人中34人合格)した。一方で、勤務時間外を含め、試験監督を行う教員の負担が軽減できていないことが改善できていない。</p>			
<p>○特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行う。</p>		<p>①1月時点で特別支援に関する校内委員会を3回実施した。さらに2月に4回目を実施する。</p>			
<p>①特別支援教室及び特別支援委員会による個別指導計画の作成・実施・評価・改善を行う。</p>	<p>A</p>	<p>②例年通り、巡回心理士による授業観察を実施するとともに、SCによる定期的な授業観察を行った。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	
<p>②巡回心理士の授業観察や校内研修を通して特別支援教育について教職員の理解を深め、支援の必要な生徒に教育的対応を行う。</p>	<p>A</p>	<p>②今年度から設置されたSSRと協力し、情報の共有を行った。来年度は、SSRの運営ルール等を改善させ、SCやSSR、学級、支援員等の分担について明確にしている。</p>			
<p>○社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。</p>		<p>①11月に3種類の職業の方を招いて、講演会を行った。(1年)</p>			
<p>①発達段階に応じた進路指導を行い3年間を通したキャリア教育を充実させる。</p>	<p>B</p>	<p>①昨年度2日間だった職場体験を、今年度は3日間行うことができた。(2年)</p> <p>①11月に全員を対象とした面接練習を行った。(3年)</p> <p>来年度も同様の規模で実施していく。</p>	<p>B</p>	<p>A</p>	
<p>○教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。</p>		<p>①学習アプリを制作している会社から講師を招き、個別最適化の学習におけるICT機器の工夫について学んだ。</p>			
<p>①指導力・授業力を高めるため、授業研究研修会を実施し、自己肯定感を高める授業改善シートを活用し、教員相互の授業観察期間を設ける。</p>	<p>B</p>	<p>①校内研修で、副校長及び主幹教諭が「学習の個性化」と「指導の個別化」におけるICT機器の使い方、アウトプットのタイミング等について講義を行った。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	
<p>②指導教諭の模範授業を活用した各教科での還元研修を実施する。</p>	<p>B</p>	<p>②7名の若手教諭が、他校の指導教諭の授業を見学し、職員会議にて報告を行った。来年度はデジタルと紙を両立させ、生徒が自ら選択できるような授業(学習の個性化)を目指していく。</p>			
<p>学校関係者意見等</p>	<p>○職場体験いいですね。</p> <p>○漢字・数学コンテストでの合格者が多く、日頃の学習成果が出ていて素晴らしい。</p> <p>○タブレットに紙だと荷物がとても重いと感じました。家庭での学習でも必要で、持ち帰らなければならないので、どうかならないのか？</p> <p>○ICTの活用は多いに結構だと思いますが、同時に考える力をつけるような指導も必要だと思います。</p> <p>○デジタルの共存の問題はとても難しい。無理は禁物であり子供にとって本質的に必要なところのみで良い。できる子を伸ばすことも大事だが、できない子どもが教科指導で自信を失わせないようにすることも大事。特別支援室の個別指導計画の評価と改善の内容が記されていない。</p> <p>○来年度はデジタルと紙の両立をさせるようですが、教員のICT技術の更なる向上や、問題集を希望する生徒が多く、受験は紙であることから、授業内容に一層の向上が望まれます。</p> <p>○11月に3種類の職業の方の講演についてホームページ、チーム文花中だよりに見当たりませんでした。</p>				
<p>生活指導</p>	<p>○いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行う。</p>		<p>①毎週1回、生活指導部会を開き、生徒情報等の共有を行った。また毎月1回10日前後にいじめアンケートを実施した。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>①生徒理解を図るための校内組織の確立を図るため、生活指導連絡会を実施する。また、いじ</p>	<p>A</p>	<p>②校内の問題や校外、他校の問題を事例に、時期に合わせて全校朝礼や昼の放送にお</p>			

様式 4

等	めアンケートを行い、いじめ問題の未然防止及び早期発見に努める。		いて、注意喚起を行った。			
	②教育相談・三者面談を実施して生徒理解を深め、学級内の心理的安全性を確保して、不登校の生徒を減らしていく。	B	本校は比較的生徒が落ち着いている。今後も生徒自らが考え、判断し、行動することで集団を保てるよう、生徒の能力に合わせた指導をしていく。			
	○基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組む。		A	①生徒会選挙で使用したポスターをデジタルで作成した。 ①近隣の児童館で行われた学習教室において、教師役のボランティアとして参加した。 ①9月に学区内の小学校に赴き、3日間のあいさつ運動を実施した。 ②SOSの出し方授業を行った（1年） ②毎年、全学年でいじめ、人権に関わる道徳授業を実施した。（年3回の実施） ③SSRを活用している生徒や家庭の要望を聞き取り、該当生徒に合った接し方や学習方法を個別に提示した。 SSRの成果が大きく、今年度は5名の生徒が登校することができた。	A	A
	①生徒会活動と連動した取組の充実と基本的な生活習慣の確立のため、あいさつの励行、時間厳守を中心とした全校・学年・学級の取組を行う。	A				
	②各行事における協働の中から学ぶ、思いやりと支え合いの取組（実行委員会等）を充実させて、良好な人間関係づくりと能力を伸長させる。	A				
	○危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。		A	①6月にセーフティ教室、9月に交通安全教室を行った。また、いじめ防止を目的とした情報モラルについての講演を行った。 ②毎月1回の避難訓練、9月に集団下校訓練を実施した。12月に全学年を対象とした防災安全教室を実施した。 来年度も継続して行っていく。	A	A
①セーフティ教室・交通安全教室・情報モラル・薬物乱用防止・いじめ防止等の教室を実施する。	A					
②防災教育の充実を図る。	A					
学校関係者意見等	○子供達からみたいじめ、大人からみたいじめの違いをよく話し合ひましょう。 ○いじめはアンケートだけではわかりにくいものだと思っておりますが、先生方の生徒への指導と理解で、いじめや不登校のない学校を目指してほしいと思う。 ○防災訓練は今後力を入れてほしい。 ○不登校や、不登校になりそうな子どもに対しての対策が、事例を生徒に放送することで対策ができていように思えない。防災訓練など、教科教育では評価されない子どもが活躍できるような工夫などが出来ると良い。 ○小中学校の連携の強化策として、教員の日常的な授業見学や意見交換があると更に良いと思います。					
学校の管理運営	○経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行う。		①週に企画、運営を各1回行い、そのレジメを回覧し、教員への周知を図った。 ②1学年の職業講演会での講師を、地域から募った。また11月に地域主催のふれあい祭りを実施し、ボランティアとして生徒から有志を募った。 ②生徒アンケートから、48%の生徒が地域行事に積極的に参加していると答えていた。 来年度は50%を目指す。	B	B	
	①企画会、運営委員会の週一回の実施とライン化の強化。	B				
	②地域行事、地域外部講師等を積極的に活用した教育活動の実施。	B				
	○子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行う。		A	①毎年、保護者から学校評価アンケート、生徒から授業アンケートを実施して改善に努めた。 ①学校運営連絡協議会に、学校評価の報告を行い、意見を下に改善を検討していく。 ②生徒アンケートから、93%の生徒が文花中を良い学校であると評価した。	A	A
①生徒の実態を把握し、保護者や地域の意見を取り入れたチーム文花中としての教育目標の設定を行う。	A					

様式 4

	②自信と誇りを持った生徒の育成に当たり、教育目標や教育活動が適切に実施できているかの評価を実施。	A	来年度も継続して行っていく。		
	○適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整える。		①夏に電子黒板を全教室に導入し、画面が見やすい環境を整えるとともに黒板の使用面積を確保した。 ②管理職が毎日教室点検を行い、必要に応じて、各学年等に指導助言を行った。	A	A
	①ICT 環境を含めた教育環境の整備と充実を図る。	B			
	②教育環境を点検し、充実した教育活動のための環境の改善に努める。	A			
家庭・地域連携	○教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行う。		①学年便りは1月までに、1学年は20回、2学年は18回、3学年は11回発行した。 ②来年度は、紙によるお知らせから、COCOOによる配信を試験的に導入することを検討していく。	B	B
	①学校だより、学年だよりの発行による教育活動の啓発。	B			
	②学校情報メールCOCOOや学校ホームページの更新と改善による啓発。	B			
	○保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行う。		①生徒会主催の地域清掃を計4回行った。(1年で8回を予定) ②11月に地域主催のふれあい祭りに参加し、約50名の生徒がボランティアとして参加した。	A	A
	①地域清掃の実施。	A			
	②育成委員会と協働して、地域行事等への参加と推進を図る。	B			
学校関係者意見等	<p>○ふれあい祭り等、よく手伝っていました。</p> <p>○ふれあい祭りの生徒の皆さんの活躍をみて、地域への関心の高さや貢献度合いが高いと感じた。</p> <p>○紙のお便りより、COCOOでのお知らせの方が、確実に保護者にわたるし、いつでも見ることができるのでありがたい。</p> <p>○文花中の良いところは地域に密着している所だと思います。これからもより一層地域との協力ができていくと良いと思います。</p> <p>○COCOO導入により、先生方の負担が少なくなるとあり、このようなシステムを効率良く使った方がよいと思います。</p> <p>○今年度は、ふれあい祭りが行われ、多くの生徒さんがボランティアで、喜んで動いてくれました。</p> <p>○地域行事の積極的参加は、全体の割合だけでなく、参加の多様性も重要な要素で、様々な地域の行事に関わりやすいような道筋が必要。93%が良いと評価したが、7%のこどもはどのように感じているのかが心配。ICT機器は、使うことが目的になりがちなので、こどもにとって本質的に必要な場合に使用できるように今後も使い方の開拓が必要。</p> <p>○「保護者や地域の意見を取り入れたチーム文花中としての…」の地域とは何を指しているのでしょうか。学校運営連絡協議会が地域でしたら、少し心もとないようにも感じられます。また、チーム文花中としての教育目標の設定は以前から言われていますが「チーム文花中」って、何となく漠然としたものを感じています。</p>				

2 令和5年度学校評価のまとめ

今年度は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図った授業にテーマを決めて、研究を進めてきた。ICT を効果的に活用し、「分かりやすい授業」を行ってきた成果として、着実に学力向上に結びついている。一方で、家庭学習の習慣化が弱いことや、思考力・判断力・表現力の深い学びについては課題が残った。ICT を使うことが目的となっていないか、深い学びへと繋がる ICT の効果的な使い方、例えばシンキングツールの活用等、研鑽を深めていくことが必要である。

地域との連携については、ふれあい祭りの実施、大学との連携において少しずつではあるが進んでいる。今後も大学生と共同で行う行事の企画や、大学主催の講座への参加を含めて、地域連携を高めていく。

以上の通り報告いたします。

墨田区立文花中学校 校長 稲垣 吉実 公印